

第2回 白馬村再生可能エネルギーに関する基本方針等連絡協議会 議事録

日時：令和3年5月26日（水）午後1時30分～

会場：白馬村役場3階 201.202 会議室

委員出席者

齋藤 達郎（株式会社リコー 環境事業開発センター 販売マーケティング室 副室長）
柳澤 英俊（北アルプス地域振興局 総務・環境課 企画幹兼環境係長）
田中 洋介（白馬村農政課 農政課長）
割田 敏明（大北森林組合 専務理事）
田口 功一（合資会社 白馬電力 代表）…………… 欠席
和田 寛（株式会社岩岳リゾート 代表取締役社長）
伊藤 英喜（株式会社五竜 代表取締役）
渡辺 俊介（白馬E Vクラブ 事務局長）
高田 翔太郎（一般社団法人 POW Japan 事務局長）
草本 朋子（HAKUBA SDG's ラボ 代表）…………… リモート参加
坪井 夏希（パタゴニア白馬/アウトレット 環境担当）
石田 幸央（株式会社しくみ 代表取締役）…………… 欠席
武田 昭彦（白馬ファーム株式会社 代表取締役） 薪事業者
田中 末春（有限会社田中建設（白馬・木材リサイクルセンター）） 会長

事務局吉田総務課長

経過、コロナ対策事項を説明。オブザーバーの参加について承認を得た。

<会長あいさつ>

齋藤会長

本日は勉強会がメインになる。最終的にアウトプットを出していくときの客観的なデータの裏付けとして重要な数字になるので、少々難しい内容の勉強会になると思うが大村様に解説をいただき、ざっくばらんに質疑をして頂ければと思う。

<勉強会>

テーマ：「白馬村のエネルギー消費量の把握方法」

講師：株式会社 早稲田環境研究所 代表取締役 大村 健太 様

<会議事項>

(1) 白馬村のエネルギー消費量の把握（計算）方法について

事務局矢口係長

①エネルギー消費量の把握方法については統計データを活用し、「実績値活用法+炭素量案分法」で進めていきたいがいかが。

②目標値について、白馬村の総量として出す方法が良いのか（観光客や人口によって左右されてしまう事が懸念される）どういった方法で目標値を設定すればよいのかについてご意見を伺いたい。

齋藤会長

実行計画や運用を見据えた実態把握の考え方（サンプリング含）について、実績があればご紹介いただきたい。

大村様

ある自治体で実際にやってみた家庭部門でのサンプルデータを例にとると、約400世帯分のサンプルをとらなければ統計的に誤差がでてしまい、正確な消費量の把握できず、活用できない実態があった。その自治体では実際に回収率の低さと回答内容の不正確さが目立ち結果的にサンプルデータを活用することはなかった。サンプルデータをうまく活用した自治体の例は残念ながら持っていない。

和田委員

ガス、電気、灯油会社など供給する会社を抑えていけばいいのではないか。

石田副会長

電気に関しては各家庭の明細の写真を撮って提供してもらえばいいかがか。

柳澤委員

長野県の統計値も実績値を把握することはかなり困難で、按分方式を多く使っている。長野県が頑張っで二酸化炭素を減らしたとしても統計値は按分を使っているの、成果がうまく把握できないのが事実である。電気であれば、実績値を把握するためにもデータの公開を要望している段階である。

事務局吉田総務課長

市町村毎での開示を全国知事会で要望をしているということでよいか。

柳澤委員

そういうことである。

事務局吉田総務課長

白馬村での取り組みを説明し、白馬村の消費電力について開示してもらえないか依頼をすることは行政として頑張っで努めたい。

和田委員

それが出来れば個別の積み上げは必要なくなる。

齋藤会長

大竹アドバイザーに質問だが、リコージャパンの全国小売の商売は白馬村でどのくらいやられているか？その実績があればサンプルとしては実態に近い数値が掴める可能性がある。

大竹アドバイザー

現在手持ちでデータがないので調べる。

草本委員

人口や観光客が増えれば二酸化炭素排出量が増えてしまうが、人が暮らす中でも排出抑制をするような生活様式に変えて、人口が増えても排出量増にならない社会を目指していかなければならない。母数が増えても最終的にはゼロカーボンを目指すことを考えなければならない。

和田委員

目標は割り算をして人口一人当たりとか、観光客一人当たりの目標値を出せばいいのでは。先ずは全体を把握しないとよく分からない。現在のままでは、経済活動が増えれば排出量も増えるという事になるので効率性が勘案されない。

石田委員

割り算と掛け算で、掛け算の係数に例えば自然エネルギー使っている数値を使うとか、計算方法を皆さんで共有し納得して作っていけばいいのでは。

高田委員

正確なデータを把握する意味では1人当たりの数値を把握していく事は大事であるし、デカップリングしていく事も大事である。経済成長や人口規模が拡大しても二酸化炭素の排出量は下げていくことは求められているので、方向性やメッセージとしてはしっかり掲げておくべきである。妥協して1人当たりの排出量が下がっているから良いという事にはし

てほしくない。

柳澤委員

県の戦略の目標としてはトータルで 2030 年までに 60%削減の数字を出しているが、そこに向けたターゲットについては、産業については企業単位での目標値を求めているが他については定性目標としているものもある。数字として把握できそうなものを優先的に数字であげていくことにより、結果的にそれを達成すれば 60%削減になるという積み上げをしている。個別の積み上げにより掲げる数値目標の設定方法もあるし、目標値に達成するためには概ねこの位の事をやれば達成できるという目標の設定方法もある。

齋藤会長

準備会での報告でも個人レベルでの行動計画を作る必要があるといった事だったと思うので、誰かがやって削減するのではなくて、あくまでも村民の皆さんも頑張ることによって削減目標に近づくといった事が大切である。

和田委員

再生可能エネルギーを使用することによって二酸化炭素の排出が減ったかどうか何らかの方法で把握できないとインセンティブが働かない。今の方法では電力 MIX がどうかは考えられていない。索道事業者として 100%再生可能エネルギーに切り替えたと仮定して、実際にはエネルギー消費量にカウントしてほしくない。家庭や宿泊施設等大きいところの係数は必要になってくる。そういう意味では電力会社がわかってその中の MIX 状況がわかればよいのではないか。また各家庭の積み上げのサンプルは外せないのかもしれない。

柳澤委員

電力会社の排出係数は、電力会社毎の自然エネルギーの割り当てで計算した数字になっているので、エネルギー当たりの二酸化炭素排出量という話のなると、電力会社毎の割合が公表されているので、その数字を使えばよい。

草本委員

白馬高校が実施した断熱改修をすることによって、二酸化炭素がどれだけ削減されたか把握していくにはどうしたらいいか。コンポストを各家庭で導入して生ごみがほぼでなくなったらどのくらい削減されたかが見えてくると村全体の機運が高まるのでは。

柳澤委員

FIT の発電部分については電力会社の販売する電気の二酸化炭素係数に反映されている。白馬村で再生可能エネルギー施設を作っても FIT 制度を利用していけば中部電力の係数に反映されてしまうので、どこまで把握するかは実際には難しい。積み上げで効果が出る話と、実際にゼロカーボンに向かってどういった取り組みをしていくかは両方の話がどうしてもでてくる。両者ぴったりと合致することは難しい。どこまで按分するのか、どこまで割り切って村の話とするのかという事はでてくる。

和田委員

だいたい大事であろうと思う部門の、だいたいやるであろう施策を掛け算してそれを把握できるようにその数値の調査をすればよい。多い産業 TOP 3 とか TOP 5 のサンプル調査又は全損調査をしっかりとる。

齋藤会長

村の多くを占めている産業部門で把握できていけば、村全体の取り組みとほぼイコールになると言える。そんな考えでなんとなく合意形成ができたのかなと思う。

事務局吉田総務課長

家庭用について意見を伺っている中で、サンプルだけでいいのか、一つの例で言うとモニターとして何年間お付き合いいただく方法がいいのか、無作為の抽出でやっていくのがいいのか、ご意見をいただきながらどういった方法がよいか考えていきたい。総量はいずれにしても必要になるので、どういう組立てをしながら補正係数を使っていくのかいくつかのパターンを考えながら詰めたいと思う。

<報告事項>

(1) 白馬村再生可能エネルギーに関する基本方針等調査策定業務仕様書について
事務局矢口係長

仕様書については事前に委員の皆様にもメールで内容をご確認いただき、ご意見を伺った。その意見を反映させたものが資料3である。ご確認をいただきたい。

<その他>

(1) 長野県からの連絡

柳澤委員より、長野県ゼロカーボン戦略（案）のポイント、第6回長野県環境審議会地球温暖化対策委員会について説明があった。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局矢口係長より今後のスケジュールについて説明。

15 : 15 閉会